

1 教育目標（目指す生徒像含む）

- (1) 基本目標
- ①活力ある生徒 ②よく考え、創造する生徒
- ③豊かな心を持ち、思いやりのある生徒 ④たくましく未来を切り拓く生徒
- (2) 具体目標（具体的な生徒像な）
- ①頑張る人 ②考える人 ③思いやりのある人 ④挑戦する人

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

豊かな心と健やかな身体をもち、社会の変化に主体的に関われる能力や創造力を培い、自らの向上とより良い社会の発展を目指し、国際社会に生きる人間性豊かでたくましく生きる生徒を育成する。

3 学校経営の方針

- (1) 教職員の和を基調とし、「教師が変われば、生徒も変わる」を信条に、師弟同行の実践を踏まえ、「生徒を前面に出し、見守り・見届ける」生徒指導・支援の充実を図り、望ましい人間関係の育成に努める。
- (2) 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を図り、考え、表現する学び合い活動や焦点化した振り返り活動を取り入れるなど、生徒一人一人の確かな学力の向上に努める。
- (3) 緑に恵まれた「清原の杜」の環境を活かし、思いやりや助け合う心を育て、特色ある学校づくりに努める。
- (4) 生徒理解を基盤に、道德教育・人権教育・発達段階に応じた教育相談の充実と各教科、総合的な学習の時間、特別活動等の特質に応じた指導の深化を図り、生徒の活力や豊かな人間性・社会性の育成に努める。
- (5) 一人一人の生徒が自己の特性について理解を深め、進路に関する情報を収集・活用し自らの生き方を探求するとともに、進路の選択・決定ができるよう、学校、家庭及び地域社会との連携を密にしながら、指導・支援に努める。
- (6) 学校ホームページを効果的に活用し、積極的な情報発信に努める。家庭や地域社会等との連携を一層深めるとともに、地域から信頼される開かれた学校づくりを推進する。
- (7) 教育公務員としての服務規律の厳正やコンプライアンスの徹底に努める。
- (8) 教職員の働き方改革の推進に向けて、同僚性を高め、生徒と向き合う時間の確保及び就労時間の削減のために、日課の工夫やICTを活用した業務の効率化や勤務時間の適正化を図る。

【清原地域学校園教育ビジョン】

自己を見つめ、自己のよさを生かした夢の実現に向けて主体的に取り組む児童生徒の育成 2ndstage
～人との豊かなかかわりを通して～

4 教育課程編成の方針

本校教育目標を達成するため、地域や学校の実態及び生徒の心身の発達の段階と特性等を十分考慮し、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな生徒の育成が図れるよう各教科等の指導内容、指導形態、時数等の相互の関連を考慮し、教育課程を編成する。その際、学力の基礎・基本の定着、心の教育、健康安全の確保、地域とともにある学校づくりに留意する。

5 今年度の重点目標 ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

- 【 学校運営 】 ～職場は明るく楽しく 仕事は厳しく誠実に～（職場の和を大切に）
- ・笑顔と活力ある生徒の育成を目指した「笑顔と活力ある学校づくり」の推進
 - ・「社会に開かれた教育課程」の理念に基づいた「地域とともにある学校づくり」の推進
 - ・ゆとりをもった計画立案、共通理解や教育活動の精選による生徒と向き合う時間の確保及び就労時間の削減
- 《学校スローガン 「GO ALL OUT ～一生懸命はかっこいい～」》
- 【 学習指導 】
- ・基礎的・基本的な「知識及び技能」の確実な定着、「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の育成
 - ・宇都宮モデル（はっきり、じっくり、すっきり）やICT（1人1台端末を含む）を効果的に活用した授業の質的向上の推進
 - ・学習活動に自主的・主体的に取り組み、他者との対話を通して、自らの学びを深めることができる生徒の育成
- 【 生徒指導 】
- ・人権尊重を大切にした「生徒を前面に出し、見守り・見届ける」生徒指導・支援の充実
 - （努力を）認めて→（達成状況を）褒めて→（次に向けて）励ましての実践＝自己肯定感や自己有用感の向上
 - ・規範意識を高め、思いやりをもち、認め合い、助け合いながら良好な人間関係を築ける生徒の育成
- ふわふわ言葉（やさしい言葉）の推進・ちくちく言葉（人を傷つける言葉）の禁止
- 【 健康（体力・保健・食育・安全） 】
- ・自らの命を守り抜くための危機予測・回避能力の育成（安全教育・防災教育・交通安全指導の充実）
- 健康教育及び安全教育を推進することによる、心身ともに健康で安全な生活態度や習慣の形成
- ・感染症予防の徹底と望ましい食習慣の定着（食に関する指導の充実と自己管理能力の育成）

6 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A 拡充 B 継続 C 縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
1－（１） 確かな学力を育む教育の推進	A 1 生徒は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。 【数値指標】 ⇒生徒の肯定的回答90％以上	①学習の3つの決まり・チャイム着席・きちんと起立、礼・指名されたらハイの徹底を図る。 ②4月に配付した「きよはら学習ガイド」を通年で活用し、学習態度や学習の進め方を指導する。 ③授業中は、教師の指示や説明を集中して聞くようにさせるとともに、落ち着いた学習環境作りに努める。 ④グループで話し合う場面や発表する場面を意図的・計画的に設定し、主体的に学習に取り組むようにさせる。	B	【達成状況】 生徒の肯定的回答は90.7％で数値指標を0.7ポイント上回った。 【次年度の方針】 年度初めに、学習の決まり事「チャイム着席、きちんと起立、礼、指名されたらハイ」の確認を行い、徹底を図る。新入生に対しては、「きよはら学習ガイド」を活用し、家庭学習の推進を図る。話の聞き方、話合いの仕方、発表の仕方などの基本的な学習態度、学習技能の育成を図る。「自主学習ノート」の運用と適切な家庭での学習課題の提示、A 1 ドリルの活用などにより、一歩踏み込んだ毎日の家庭学習を習慣付ける。
1－（２） 豊かな心を育む教育の推進	○A 2 生徒は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 ⇒生徒の肯定的回答90％以上	①道徳科の授業で思いやりについて考えさせ、日常生活において思いやりの心を態度で示す道徳の実践力を育む。 ②全教職員は、日常的に生徒の言動に気を配り、 <u>ふわふわ言葉（やさしい言葉）の推進をし、ちくちく言葉（人を傷つける言葉）の禁止を徹底する。</u> ③給食活動や清掃活動などの当番活動や係活動において、互いの役割を尊重する意識を高める。 ④生徒の活動をしっかりと観察し、思いやりあふれる行動を日常的に称賛する。 ⑤学校行事後は、統一した振り返りシートを活用し、思いやりの心の大切さや意義に気付くとともに、お互いに認め合えるようにする。 ⑥保護者や地域住民にも、学校ホームページを活用し、思いやりある行動を広報する。	B	【達成状況】 生徒の肯定的回答は91.9％で数値指標を1.9ポイント上回った。 【次年度の方針】 特別の教科道徳の授業で思いやりの心について考え、学校行事、当番活動、清掃活動などで、道徳の実践力を育むとともに、教職員が望ましい言動の模範を示し、生徒の言動について日常的に気を配る。また、学校生活の中での、生徒の思いやりあふれる行動を称賛できるよう、生徒の活動をしっかりと観察する。 行事等の事後指導では、統一した振り返りシートを活用し、思いやりの心の大切さや意義に気付くようにする。保護者や地域住民にも、学校ホームページ等を活用し、思いやりのある行動を広報する。
	A 3 生徒は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 ⇒生徒の肯定的回答90％以上	①学級活動では、様々な職業の社会的役割や意義を理解させ、自己の生き方を考える指導を取り入れ、学習の意義や価値を考えさせたり、将来設計を行ったりできるよう指導する。 ②将来の目標に近づくための進路実現を目指して、計画的なテスト前学習に取り組ませ、テスト後の結果の振り返りに、粘り強く取り組ませる。 ③「生徒が前面に出る」ために、関わる教職員は成功体験させるための入念な準備を行い、“黒子”に徹することで、「見守り・見届け」指導の充実を図る。	A	【達成状況】 生徒の肯定的回答は86.8％（昨年度より0.2ポイント↑）で数値指標を3.2ポイント下回った。 【次年度の方針】 次年度も拡充項目とする。生徒の実態に応じた個別学習やグループ学習、繰り返し学習、学習態度別学習、生徒の興味・関心に応じた課題学習、補充的な学習や発展的な学習など個に応じた指導の充実を図り、定期テスト等でその成果が実感できるような指導を心がける。また様々な学校行事、校外活動、部活動等を通して、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組むことのできる生徒の育成を目指す。
1－（３） 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進	○A 4 生徒は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 ⇒生徒の肯定的回答90％以上	①保健だよりや給食だよりを定期的に発行し、生徒へ健康や安全の重要性について周知する。 ②朝食や給食を残さず食べること、歯磨きに関する強化週間を設け、委員会等でも呼びかけを行うことで、健康や食生活に対する意識を高める。 ③安全教育の充実を図るとともに、 <u>実技や実験、実習作業を伴う授業においては、生徒自身の危機予測や危機回避などの資質能力を高めるよう、安全に配慮する指導を徹底する。</u> ④年間を通して常時換気を行い、 <u>エアコンを適切に使用しながら、夏季に熱中症計を設置したり、冬季には加湿器を設置したりして、熱中症や感染症の予防に努める。</u> ⑤避難訓練を年2回行い、 <u>注意すべき点や安全に関する講話をすることで、災害安全や防災に対する関心を高めさせる。</u>	B	【達成状況】 生徒の肯定的回答は91.4％で数値指標を1.4ポイント上回った。 【次年度の方針】 引き続き、保健だより・給食だよりを定期的に発行し、生徒・保護者へ食育や健康の重要性について啓発したり、朝食の重要性に関する強化週間を設けたりして望ましい食習慣の育成を図る。 感染症予防については、マスク着用・手洗い・換気の指導等を継続していく。 教員の働きかけのみならず、より主体的に健康や安全に気を付けられるように促す。そのために、生徒が主体となって専門委員会等で対策を考え、呼びかけを行うなどの啓発活動を行う。 年2回の避難訓練や日頃の防災教育の充実を図り、災害安全や防災への関心をより高めさせる。
1－（４） 将来への希望と協働する力を育む教育の推進	A 5 生徒は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。 【数値指標】 ⇒生徒の肯定的回答85％以上	①学級活動や道徳で、自己を見つめ、自分が社会のためにできることは何か考えさせ、未来を担う社会人を目指して、夢や目標をもつことの大切さを理解させる。 ②地域の貢献や社会奉仕の意義を理解させ、ボランティア活動や地域行事に進んで参加できる態度を育てる。 ③地域未来会議や宇都宮学の授業などを通して、社会に参画し、地域の発展に貢献しようとする態度を育てる。	B	【達成状況】 生徒の肯定的回答は88.8％で数値指標を3.8ポイント上回った。 【次年度の方針】 学級活動や生徒会活動を通して、自己肯定感の育成を図る。地域行事や社会体験学習等を通して、地域貢献の意義、働くことの尊さを実感させ、主体的に自己の在り方や生活について考えさせる。また、「地域未来会議」や「宇都宮学」を通じて、地域の方々と世代を越えて、学校や地域の未来などについて議論することで、地域の発展に貢献しようとする態度を育てる。ボランティア活動の一層の充実を図る。

2 - (1) グローバル社会に主体的に向き合い、郷土愛を醸成する教育の推進	A 6 生徒は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 ⇒生徒の肯定的回答85%以上 A 7 生徒は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 ⇒生徒の肯定的回答80%以上	①英語の授業でALTやT2との活動の際、small talkを使って英語でコミュニケーションをとる場を計画的に設定する。 ②英語の授業で、教員が発する英語の指示に生徒が英語で反応する学習の場面を多く設定する。 ③「ALTとコミュニケーション週間」を年に3回設定し、英語を積極的に使う機会を設ける。 ①各教科で地域の良さや学校の良さに触れる題材や学習場面を設定し、郷土に目を向けさせることで、宇都宮の良さに気付くようさせる。 ②「総合的な学習の時間」での「宇都宮学」において、宇都宮の良さを学ぶ探究活動の充実を図る。 ③学校給食では、郷土食や宮っ子ランチを教材にして、宇都宮の歴史や文化について考えさせ、郷土への愛情と誇りをもたせる。 ④「宇都宮学」の学習の様子をホームページや「学年だより」で発信したり、保護者会等で生徒が発表したりする場を設定する。	B 【達成状況】 生徒の肯定的回答は77.6%（昨年度より5.9ポイント↑）で数値指標を7.4ポイント下回った。 【次年度の方針】 普段の英語の授業から、自分や身の回りのことについて、英語で表現する機会（話す、書く）を多く設ける。更に、文章で記述する表現活動の実践を推進する。その際、授業以外でも、ALTと積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。国際理解教育を通じて、異文化理解を進めながら、身近な人を尊重し、思いやりをもって接する態度を育てる。 B 【達成状況】 生徒の肯定的回答は84.2%（昨年度より0.1ポイント↑）で数値指標を4.2ポイント上回った。 【次年度の方針】 引き続き「総合的な学習の時間」での「宇都宮学」において、宇都宮の良さを学ぶ探究活動の充実を図る。LRT「ライトライン」や郷土食などの地域の特長を生かしながら、カリキュラムマネジメントの視点から、教科等横断的な学習の充実を図る。今年度同様、保護者会やオープンスクールなどで、生徒が発表・発信する機会を多く設けていきたい。
2 - (2) 情報社会と科学技術の進展に対応した教育の推進	A 8 生徒は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 ⇒生徒の肯定的回答85%以上	①ICT教育チームを中心に、ICT支援員を有効活用し、校内のICT教育の体制を整え、教員のICT活用指導能力を高めていく。 ②教員は、各教科で少なくとも1回は図書室を活用した授業を行う。 ③授業参観や一人一授業の公開授業では、ICTや図書等を活用した授業を行う。 ④年度当初、タブレットの正しい活用の仕方を生徒に指導する。 ⑤年度当初、1年生を対象とした図書館使用のガイダンスを実施する。（国語科との連携）	A 【達成状況】 生徒の肯定的回答は67.8%（昨年度より6.7ポイント↓）で数値指標を17.2ポイント下回った。 【次年度の方針】 今年度に引き続き、拡充項目とする。ICT支援員と連携しながら、教員のICT活用指導能力を高める。定期テスト前の朝の読書の時間帯を利用するなどしてAドリルの積極的な活用を目指す。 図書室の蔵書の更なる充実を図り、図書室での授業の活性化を図る。 オンライン学習のガイドラインを整備し、いろいろな事情により教室で学習できない生徒の学びの保障を図る。
2 - (3) 持続可能な社会の実現に向けた担い手を育む教育の推進	A 9 生徒は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 ⇒生徒の肯定的回答80%以上	①「持続可能な社会」を目指すための目標(SDGs)についての掲示物やスライドを作成し、生徒に啓発する。 ②教室にプラスチックごみ箱、リサイクルボックスを設置し、持続可能な社会の実現に向けた行動に関心を高め、実行につなげる。 ③緑化委員会による学校敷地内の花壇の整備や松のこも巻き活動を通して、校内の緑化活動を推進する。 ④避難訓練を年2回行い、事後指導では、生徒全員の状況を丁寧に把握し、災害安全や防災に対する関心を高めさせる。	B 【達成状況】 生徒の肯定的回答は78.6%（昨年度より0.7ポイント↓）で数値指標を1.4ポイント下回った。 【次年度の方針】 引き続き、「持続可能な社会の構築」について、教職員や生徒の意識を高める。各教科において「持続可能な社会」についての教材を扱う際に、本校の取組と関連付けることで、生徒にも身近な課題として意識させる。また、防災についても触れる機会を増やしていく。 来年度は緑化・給食・美化・防災、ボランティアなどの各委員会の活動内容で、「持続可能な社会」と関係したものを紹介する。
3 - (1) インクルーシブ教育システムの充実に向けた特別支援教育の推進	A10 教職員は、特別な支援を必要とする生徒の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 ⇒教職員の肯定的回答95%以上	①教育相談・特別支援教育部会において、生徒の状況についての情報を継続的に共有していくとともに、関係する学年・教職員との連携を図る。 ②特別な支援を必要とする生徒について、学校生活で配慮が必要な生徒に関して、校内でケース会議を開催し、チームで支援の方法を考える。 ③かがやきルームや教育支援教室の適正な運用を図る。 ④特別支援教育コーディネーターとSCMを中心に、特別な支援を必要とする生徒や配慮を要する生徒への対応方法に関する校内研修を行う。	B 【達成状況】 教職員の肯定的回答は100%で数値指標を5.0ポイント上回った。 【次年度の方針】 特別支援教育コーディネーターとSCMを中心に、特別な支援を必要とする生徒や配慮を要する生徒への対応方法に関する校内研修を行っていく。かがやきルームや校内教育支援教室の活用の仕方について、共通理解を図るとともに、学級担任との連携を強化していく。また、教育相談・特別支援教育部会を中心に、情報の共有と、必要に応じて外部機関との連携を図る。
3 - (2) いじめ・不登校対策の充実	A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 ⇒生徒の肯定的回答95%以上	①学級担任は、いじめを絶対に許さない毅然とした姿勢で学級経営を行うとともに、「個性」について考え、人との違いをより深く考えさせる場を道徳や学級活動等で設定する。 ○②全教職員は、日常的に生徒の言動に気を配り、ふわふわ言葉（やさしい言葉）の推進をし、ちくちく言葉（人を傷つける言葉）の禁止を徹底する。 ③いじめアンケートやWEB QU検査の結果、日常の観察から、いじめの早期発見・早期解決を徹底し、未然防止に努める。問題行動に対しては見逃さずにその場で指導する。 ④保護者会や学校・学年・生徒指導だより・HPなどで、いじめの未然防止について取り上げ、いじめ根絶に向けた本校の取組を発信する。 ⑤いじめゼロ強調月間には、特別の教科道徳の授業でいじめに関連する授業を全学級が実践し、いじめが許されない行為であることを指導し、未然防止に向けて考えさせる。また、全学級でいじめ根絶集会を行い、いじめ根絶につなげていく。	B 【達成状況】 生徒の肯定的回答は94.2%（昨年度より1.2ポイント↓）で数値指標を0.8ポイント下回った。 【次年度の方針】 いじめアンケートやWEB QU検査の結果を活用し、定期教育相談等を通し、いじめを見逃さず認知できるようにする。また、いじめゼロ強調月間には、特別の教科道徳の授業でいじめに関連する授業を実践し、いじめが許されない行為であることを指導し、未然防止に向けて考えさせる。また、生徒主体のいじめ根絶集会を年2回行い、いじめ根絶につなげていく。いじめ根絶に向けた本校の取組を、各種たより、ホームページ等を活用し、保護者、地域に積極的に発信する。

3 - (2) いじめ・不登校 対策の充実	A12 教職員は、不登校を生まない 学級経営を行っている。 【数値指標】 ⇒教職員の肯定的回答 100%	①学級担任は、係活動や当番活動、授業中の発表など で生徒一人一人の取組の良さを見出し称賛すること で、生徒にとって居がいのある学校生活となるような 学級経営を行う。 ②教職員同士で生徒の望ましい言動を伝えあい、生徒 の自己肯定感を高めことで、学校全体として生徒を見 守り、見届ける指導をする。 ③保護者へ連絡をする機会に、生徒の良い点を意図的 に伝えるようにする。 ④学級担任が学級の問題や課題を一人で抱えこまず、 学年や全体で情報を共有し、組織的に対応策を考え取 り組めるようにする。	B	【達成状況】 教職員の肯定的回答は96.2%（昨年度より3.8ポイント↓） で数値指標を3.8ポイント下回った。 【次年度の方針】 日頃から自己肯定感を体感できる居がいのある学級経営 を心がけるとともに、学級担任が学級の問題や課題を一人で 抱え込まず、学年や全体で情報を共有し、組織的に対応策 を考え、取り組めるようにする。 教育相談・特別支援教育部会を中心に、配慮生徒への情報 を共有し、早期対応ができるよう、教職員が適切に連携し ていく。
3 - (3) 外国人児童生徒 等への適応支援 の充実 3 - (4) 多様な教育的 ニーズへの対応 の強化	A13 学校は、一人一人が大切にさ れ、活気があり、明るくいきいきと した雰囲気である。 【数値指標】 ⇒生徒の肯定的回答 90%以上	①学校生活全般において教職員が意図的・計画的に生 徒の頑張りと良さを認め、励まし、称賛する教育の推 進を心がけ、生徒が自己有用感を実感できるようにす る。 ②教職員一人一人が自信をもって自分の業務に取り組 み、生徒と関わることで、学校全体が明るい雰囲気にな るように努める。 ③生徒会活動をより活性化し、教師主導でなく、生徒 の自発的な活動を伸ばすようにし、生徒が前面に出る よう、見守り助ける指導にあたる。 ④学年主任は、学年の生徒たちが生き生きと活躍でき る明るい雰囲気となるよう、各学年の諸活動を推進 し、自分の学校に誇りをもてるようにする。 ⑤教職員は、業務を一人で抱えこむことなく、協働す ることで活性化を図る。業務を効率化させ、まずは教 職員の活気に溢れ、明るくいきいきとした雰囲気にな る。	A	【達成状況】 生徒の肯定的回答は94.3%（昨年度より0.6ポイント↓）で 数値指標を4.3ポイント上回った。 【次年度の方針】 次年度も引き続き拡充項目とする。 生徒会活動をより活性化し、教師主導でなく、生徒の自発 的な活動を伸ばしていく。生徒の頑張りを生かして、認め 励ます指導を推進することから、善い行いや努力をみとる 表彰を追加する。 学校全体がさらに明るい雰囲気となる諸活動を推進し、生 徒が自分の学校に誇りをもてるようにする。 教職員がライフワークバランスを常に心がけるよう呼びか け、心身ともに健康を維持できるようにする。
4 - (1) 教職員の資質・ 能力の向上	A14 分かる授業や生徒にきめ細か な指導を行い、学力向上を図ってい る。 【数値指標】 ⇒生徒の肯定的回答 90%以上	①主体的・対話的で深い学びに向けた指導の充実を図 り、宇都宮モデル「はっきり！じっくり！すっきり！」の授業展開を目指す。「本時の目標」を適切に 提示して学習に見通しをもたせ、「振り返り」の時間 の確保を徹底することで、学習の達成感をもたせ、分 かる授業につなげる。 ②ペアやグループ学習を取り入れた対話的な活動や I C T の活用や教材・教具を工夫するなど視覚的な活動 を通して、個に応じたきめ細かな指導を図る。 ③テスト前に補習形式の質問教室を充実させ、個別の 指導にあたる。③テスト前に補習形式の質問教室を充 実させ、個別の指導に当たる。 ④指導と評価の一体化を図りながら生徒の学習状況を 把握することで、「努力を要する」生徒に対して適切 な支援を行う。	B	【達成状況】 生徒の肯定的回答は90.9%（昨年度より2.2ポイント↓）で 数値指標を0.9ポイント上回った。 【次年度の方針】 生徒の興味を喚起するような「本時の目標」の提示を行 う。「一人一授業」「教科部会」などを通じて、情報交換 を行い、授業の改善点や指導方法などについてアドバイス し合う。定期テスト、各種学力調査の結果を詳細に分析 し、今後の教科指導に生かす。指導と評価の一体化を図 り、生徒一人一人の良さを適切に評価し、生徒の資質・能 力を伸ばす。
4 - (2) チーム力の向上	A15 学校に関わる職員全員がチー ムとなり、協力して業務に取り組ん でいる。 【数値指標】 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上	①学校行事や諸活動では、目的や方法の共通理解を丁 寧に行うことで、教職員全員が協力して業務に取り組 む。 ②担当者による報告・連絡・相談を徹底し、必要に応じ て全体への周知を図る。また、諸活動の実施後は取組 の検証を行い、改善策を次に生かすことで、チームと しての質の向上を図る。 ③生徒理解や配慮を要する生徒の適切な対応には、S C Mを中心にS C、M S、学年や学級担任との連携を 密にし、全職員で情報共有や協力した取組を行う。	B	【達成状況】 教職員の肯定的回答は90.6%（昨年度より5.3ポイント↓） で数値指標を0.9ポイント上回った。 【次年度の方針】 生徒理解や配慮を要する生徒の対応等において、学級担任 が一人で抱え込むことのないよう、さらにチームで取り組 んでいく。また、教職員の共通理解のもとと行事等に取り組 むとともに、互いに進捗状況を確認する。 報告・連絡・相談の徹底を継続し、チームとしての質の向 上を図っていく。
4 - (3) 学校における働 き方改革の推進	A16 勤務時間を意識して、業務の 効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 ⇒教職員の肯定的回答 70%以上	①出退勤記録の入力や適切なリフレッシュデーの設定 により、勤務時間の意識化を図る。 ②諸会議録や連絡事項、学年・教科間で共有できる電 子データを活用して業務の効率化を行う。 ③定期的にアンケートなどを実施し、業務改善を図つ たり、校務運営委員会や学年主任会、職員会議を活用 して、学校行事の円滑な運営や計画的な学年経営を行 う。 ④部活動顧問を複数配置し、ローテーションで指導に あたる。	A	【達成状況】 教職員の肯定的回答は71.7%（昨年度より16.1ポイント ↓）で数値指標を1.7ポイント上回った。 【次年度の方針】 来年度も引き続き、拡充項目とし強化を図っていく。 勤務超過時間が60時間を超える教職員に業務の効率化を 呼びかけるとともに、全職員に対し、タイムマネジメント の必要性を推奨する。また、ICT・さくら連絡網等を活 用し、学校業務のペーパーレス化の推奨、諸会議等の効率 化、計画的・能率的運営をさらに推進する。

5 - (1) 全市的な学校運営・教育活動の充実	○A17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 ⇒教職員の肯定的回答90%以上	①公開授業、小中情報交換会（オンラインでも開催）、児童生徒指導強化連絡会、学校園あいさつ運動、学校園共通お弁当の日、小学6年生の中学校訪問など、小中の連携を図り、取組の充実を図る。 ②地域学校園教職員研修の授業研究を行い、その指導法や成果等を共有し教科指導力向上を目指し、次年度に向けた課題の洗い出しをする。 ③学校ホームページや学校だより、「地域協議会だより」や「清原地域学校園だより」において、小中一貫教育や地域学校園の活動の様子を保護者や地域に周知する。	B 【達成状況】 教職員の肯定的回答は90.6%（昨年度より3.3ポイント↓）で数値指標を0.6ポイント上回った。 【次年度の方針】 今まで実施していた行事等も実施されるようになり、引き続き、小中連携については、持続可能な取組を行っていく。特に小中合同のあいさつ運動や小6中学校訪問などを通して、子どもたちの意識を高めていく。また、今後も、各種たよりやホームページ等を通して保護者や地域に向けたPR活動を行う。要請訪問等を公開し、小中で授業を見せ合うことで学校園での授業力向上に努める。
5 - (2) 主体性と独自性を生かした学校経営の推進 5 - (3) 地域と連携・協働した学校づくりの推進	A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。 【数値指標】 ⇒教職員、保護者の肯定的回答90%以上	①清原中学校地域協議会の協力を得て、図書館等のボランティア、家庭科ミシンボランティアや校内環境整備活動等を展開しながら学校運営の充実を図る。 ②各学年のクリーン活動やとびやま城址跡公園ボランティア清掃、学校敷地内の緑化環境整備をPTAや地域と協力して行い、運営の充実を図る。 ③青色防犯パトロールや下校指導をPTAや地域協議会と連携して実施し、生徒の安全確保の協力を得る。 ④「地域未来会議」を12月に実施し、清原地域の未来について生徒と地域、行政機関と協議する場を通して、郷土を愛し地域の未来を創造しようとする生徒の育成に努める。 ⑤地域の教育力を生かした特色ある活動を学校だよりやHPなどで、積極的に情報発信する。	B 【達成状況】 教職員の肯定的回答は98.1%（昨年度より0.1ポイント↑）で数値指標を8.1ポイント上回った。保護者の肯定的回答は86.1%（昨年度より1.7ポイント↓）で数値指標を3.9ポイント下回った。 【次年度の方針】 次年度も引き続き、PTAはボランティアを募集して活動していく。 活動については、本年度同様、校内や地域の環境整備作業を中心に地域協議会、PTAと連携を図って実施する。また、地域連携教員が主務者となり、「地域未来会議」や各種地域ボランティア活動を継続していく。それらの様子を学校たよりやホームページを用いて、地域や保護者に積極的に発信する。
6 - (1) 安全で快適な学校施設整備の推進	A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 ⇒教職員の肯定的回答100%以上	①毎月1回の安全点検を丁寧にを行い、危険箇所の早期発見を心がけ、早期対応を図る。 ②来校者をチェックし、名札の着用を求めるとともに、校門を登下校時以外は閉めておく。 ③台風や地震、落雷、降雪などの災害発生前後に校舎内外の巡視を行い、危険回避につとめるとともに、危険箇所の早期発見・早期対応を図る。	B 【達成状況】 教職員の肯定的回答は96.2%（昨年度より2.3ポイント↑）で数値指標を3.8ポイント下回った。 【次年度の方針】 月1回の定期安全点検や災害発生前後の安全点検を丁寧にを行い、危険箇所の早期発見・早期対応を継続する。また引き続き、防犯カメラ等で来校者に対するチェックを行うとともに、登下校時以外の校門の閉鎖を徹底する。
6 - (2) 学校のデジタル化推進	A20 コンピュータなどのICT機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができています。 【数値指標】 ⇒教職員の肯定的回答90%以上	①生徒が授業や家庭持ち帰りにおいて、タブレットを快適に使用できるよう適切に管理・運営する。 ②職員室の棚に書画カメラやDVDプレーヤー、CDラジカセ等を置き、管理簿を用いて紛失を防ぎ、定期的にメンテナンスをするなど、保管・整備を工夫する。	B 【達成状況】 教職員の肯定的回答は94.3%（昨年度より5.7ポイント↓）で数値指標を4.3ポイント上回った。 【次年度の方針】 授業の充実、業務の効率化にデジタル（タブレット、ミライム、校務支援システム、学習情報システム、さくら連絡網等）を有効的に活用する。そのためにICT支援員、ICT主任を中心に設定、保管、整備等を定期的かつ確実に行う。
小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等	B1 生徒は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 ⇒生徒の肯定的回答95%以上	①あいさつの大切さはもとより、あいさつの声飛び交う明るい学校づくりの一端を担うという意識をもたせ、朝の会や帰りの会時、授業開始時・終了時、給食時のあいさつを徹底し、習慣化させる。 ②教職員が自ら率先してあいさつを行う。 ③学年委員会を中心としたあいさつ運動を、週1回程度実施する。 ④校内での来客や、校外の交通指導等でお世話になるPTAや地域の方々にもあいさつができるよう促す。	B 【達成状況】 生徒の肯定的回答は97.3%（昨年度より0.2ポイント↓）で数値指標を2.3ポイント上回った。 【次年度の方針】 教職員が自ら率先してあいさつを行い、①の取組を中心に、生徒へのあいさつと会釈の励行を重点的に推進する。あいさつの大切さはもとより、あいさつの声飛び交う明るい学校づくりの一環として担うよう意識を高める。また、定期的にあいさつ強化週間を設定し、生徒会と学年委員会を中心に、生徒を主体としたあいさつ運動を工夫する。
	B2 生徒は、きまりやマナーを守って、生活している。 【数値指標】 ⇒生徒の肯定的回答90%以上	①生徒の委員会活動での自主的な活動を、掲示物やテレビ放送等で知らせ、自分の役割を果たすことやルールを守ることの大切さを理解させる。 ②全教職員の共通理解・共通認識のもと、きまりやマナーを守らせる指導を行い、できない生徒の言動を見逃さない指導を適切に行うことにより、規範意識を高めていく。 ③生徒が主体となって、きまりやマナーを守って生活する啓発活動を行う。	B 【達成状況】 生徒の肯定的回答は96.1%（昨年度より0.3ポイント↑）で数値指標を6.1ポイント上回った。 【次年度の方針】 定期的に生活を振り返る機会を設定し、教員から良い行動を承認する。 教職員の指導だけでなく、生徒会活動を活性化し、本年度実施したように、生徒が主体となって、きまりやマナーを見直したり守って生活する啓発活動を行う。

小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等	B 3 生徒は、家庭学習の習慣化を図っている。 【数値指標】 ⇒生徒の肯定的回答 90%以上	①各学年最初のガイダンスにおいて、具体的な家庭学習の仕方を指導する。また、学年だよりで保護者にも見守りを依頼し、家庭の協力を得る。 ②学習委員会が中心となり、自主学習ノート提出の呼びかけやチェックを行う。また年4回、自主学習ノートを毎日提出できた生徒の表彰や優秀なノートの展示を行う。 ③自主学習ノートの確認を朝の時間を利用して学年体制で行う。未提出の生徒や取組が不十分な生徒には、学級担任が学習の仕方等の個別指導を行い、内容の充実を図る。 ④A I ドリルの家庭学習での活用を図る。	A 【達成状況】 生徒の肯定的回答は79.1%で（昨年度より0.9ポイント↓）数値指標10.9ポイント下回った。 【次年度の方針】 次年度も引き続き拡充項目とする。 生徒の肯定的回答は5年連続で低下している。家庭学習への意欲を向上させるために学習委員や学級担任と連携しながら、効果的な学習方法や自分に合った学習方法を見つけさせ、継続的かつ粘り強く取り組ませて学力向上を目指す。保護者会や懇談等の機会に、家庭での適切な働きかけについて確認・共有する。
	B 4 生徒は、緑化活動やクリーン活動に取り組んでいる。 【数値指標】 ⇒生徒の肯定的回答 80%以上	①緑化委員会による花壇の整備や水やり、中庭の緑化環境を充実させる。また、緑化委員の取組として校内掲示板で周知する。 ②学年ごとの校内クリーン活動を年2回、とびやま城址跡清掃ボランティアを行い、事後の振り返りを行う。美化委員もTV放送等を利用して、活動の振り返りを伝え、環境美化の意欲を高め、生徒がより主体的に活動が行えるように働きかける。 ③特色ある学校づくりの一端として、1学年の総合的な学習の時間における草花栽培活動を充実させ、生徒の自主的・主体的活動を促すようにする。 ④各クラスで植物や動物を育てる。昇降口や渡り廊下にもまとめて植物を並べ、日直管理にして全員が関わるようにする。）	B 【達成状況】 生徒の肯定的回答は68.8%（昨年度より3.8ポイント↓）で数値指標を11.2ポイント下回った。 【次年度の方針】 ①②③④の諸活動を緑化委員会や美化委員会の活動を中心に強化していく。校内クリーン活動や美化コンクールなど、全校生徒で活動する取組を継続、強化し、地域協議会やPTAと連携した活動も継続していく。
	○B 5 生徒は、交通ルールやマナーを守って安全に登下校している。 【数値指標】 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上	①年度初め、新入生に向けた交通安全指導の徹底と交通安全教室を年2回実施し、交通安全への意識を高める。また、定期的に登校指導や日頃の交通マナーを確認するとともに、生徒の通学状況及びL R T開通に伴う危険箇所の把握に努める。 ②部活動終了後の日々の下校指導や、定期的な自転車点検を行うことで、安全な登下校ができるよう指導する。 ③交通安全委員が帰りの会で反射ベスト点検やヘルメットのあごひも点検を行い、安全に登下校できるよう呼びかけをさせる。また、「交通安全週間」を設けることで、改めて交通ルールやマナー、危険箇所を振り返られるよう指導する。	A 【達成状況】 教職員の肯定的回答は67.9%（昨年度より19.9ポイント↓）で数値指標を22.1ポイント下回った。 【次年度の方針】 引き続き、拡充項目とする。年2回の交通安全教室を実施し、交通安全への意識を高めるとともに、月1回の登校指導や日頃の交通ルールやマナーを確認し、生徒の通学状況及び危険箇所等の把握に努める。特に、年度当初に新入生に向けた交通安全指導を強化する。 交通安全委員の取組を継続し、生徒が安全に登下校できるように呼びかけを行うとともに、下校時の反射ベスト着用の徹底を図る。 また、生徒が交通ルールを守れていない姿が見られた際は、全校放送で呼びかけたり、学級担任からも話をしたりすることで、自分たちの交通マナーや危険箇所を改めて振り返るよう指導する。

【総合的な評価】（「小中一貫教育・地域学校園」に関する評価内容は○）

《全体》目標数値指標26項目のうち、15項目が指標を達成し、市中学校平均を上回った項目は63項目中、37項目であった。

課題としては、生徒と保護者のデジタル機器や図書等の活用の意識、教職員が感じている生徒の思いやりの心と交通ルールやマナー意識、学校における勤務時間を意識した業務の効率化であった。

《生徒》目標数値指標16項目のうち、9項目が指標を達成し、市中学校平均を上回った項目は17項目中、9項目であった。

課題としては、「デジタル機器や図書等を学習に活用している」については、市平均より6.1ポイント低い結果となった。目標数値指標に達することができなかった7項目のうち、「デジタル機器等の活用」「家庭学習の習慣化」「緑化活動への取組」は目標数値指標より10ポイント以上低い結果となった。特に「デジタル機器等の活用」「家庭学習の習慣化」は重点目標でもあるため、ICTの有効活動や自主学習ノートやAIドリルを活用し、一歩踏み込んだ家庭学習の指導をしていく必要がある。

《教職員》目標数値指標9項目のうち、6項目が指標を達成し、市中学校平均を上回った項目は22項目中、16項目であった。重点項目7項目のうち、5項目は85～100%と良好な結果であった。業務改善については、目標数値指標は達成したもの昨年度より16.1ポイント下がっており、また、市平均より7.4ポイント低く、課題が残る結果であった。また、交通安全については、67.9%と数値が低く学校として大きく取り上げていかなければならない課題である。さらに生徒の思いやりの心に関して9.4ポイント下がっていることも課題である。

《保護者》目標数値指標1項目は目標を達成できず、さらに前年度よりも下回った。市中学校平均を上回った項目は15項目中、7項目であった。

また、重点項目5項目中、3項目で昨年度を下回った。特に「家庭学習の習慣化」については、66.1%と低い数値であった。デジタル機器や図書等の活用については、市平均より5.7ポイント低く、生徒ともども課題となった。

《地域住民》9項目中、6項目で昨年度より上回り、すべての項目で90%以上で良好な結果であった。市中学校平均を上回った項目は9項目中、5項目であった。

7 学校関係者評価

地域協議会等での意見、アンケート結果を以下にまとめた。学校を応援してくださる温かい思いが感じられた。

1「令和6年度 清原中学校 学校評価」・「令和6年度うつのみや学校マネジメントシステム全体アンケートの肯定的割合比較表」等の説明や学校長の「令和7年度清原中学校経営方針」について

- ・教職員の勤務時間に大きな差はないか？（業務量等）
- ・教職員の心の問題等のケア（生徒指導の影響ないように）
- ・「家庭学習の習慣化」について、生徒、保護者、教員、共に低かったのが気になりました。小学校でも同様に低い傾向がありましたので、小中が連携して取り組んでいく必要性を感じました。
- ・データ数を併記できたらよい。1%が何人のデータに相当するのか。
- ・大変よい経営方針です。是非、生徒、先生、保護者、地域代表が協力し合って、達成できるよう願っています。来年の発表が楽しみです。
- ・マネジメントについては、昨年度と市平均と比較して分析し、改善点を明確に示されていた。
- ・経営方針の説明は、パワフルでよかったです。
- ・全体的に良い評価だと思います。清原らしさを大切にし、これからも更に発展してほしいと思います。先生方も清原らしさをご理解いただきたい。
- ・教職員の業務効率化をデジタルやAIなどの積極的活用により、より一層図っていくべきと感じる。No7の教職員、保護者の評価が高いところは、「宇都宮学」などの成果の表れと考えている。
- ・交通ルール、事故が多くなった原因については、車の運転のマナーの影響も大きいのではないか。生徒は、ヘルメットをしっかりとぶり、登下校している姿を見ている。

2 本校生徒の様子について

- ・細い道からの飛び出し（自転車）が見受けられる。
- ・礼儀正しく元気のある印象です。あいさつ運動、お世話になりました。
- ・明るく自分からコミュニケーションを図ろうとするところが素敵です。
- ・はつらつとしている生徒が多い印象です。2042年（100周年）まで、頑張りましょう。
- ・清原中学校グランドデザインの影響だと思いますが、生徒たちが生き生き活動しているように感じます。部活動での活躍、合唱コンクールに向けての意気込み、そして生徒会の取組等「一生懸命」が大いに伝わってきます。
- ・明るく元気な生徒が多いという印象を受けている。
- ・礼儀正しく挨拶ができ、元気な子どもが多い印象を受ける。

3 先生方からの意見

- ・生徒も職員も日常的に取り組めているからか、SDGsの掲示物を使った啓発活動が積極的ではなかった。個々の教育活動や取組【2飢餓（給食残さず食べよう・おやつカフェ）、3保健（健康診断）、4教育（授業）、5ジェンダー（制服の選択）、12持続可能な消費と生産（リサイクル・ボトルキャップ回収）、15陸上資源（緑化活動・クリーン活動）など】が、SDGsの目標と関連していると意識していないことが課題である。授業や生徒会活動で意図的に17項目を明示できると「持続可能な社会」について継続的に関心をもたせられるのではないかと考える。
- ・登下校中の自転車事故が増加し、10件を超えている。地域からの苦情電話も増えた。生徒数の増加や道路環境の変化も、昨年や一昨年よりも目標値を大きく下げた一因と考える。交通ルールを知らない・守れない生徒も多いと感じているので、定期的に交通ルールや危険行為の確認をしたり、保護者や生徒自身へ交通ルールの遵守を伝えたりすることが必要である。月に一回程度、会議等のない日やリフレッシュデーを活用し、職員が近くの混み合う交差点や事故多発現場まで付き添って行くことも必要かもしれない。
- ・時と場に応じたあいさつができるように、あいさつ強化週間実施の際は、「元気なあいさつ」「丁寧なあいさつ」「会釈」「授業前後のあいさつ」等と的を絞って実施していくと、場に応じたあいさつが身に付くと考えられる。
- ・緑化活動やクリーン活動の取組に対して、生徒の肯定的回答が数値指標を大幅に下回った。実際にクリーン活動をしているが、それとアンケート項目が結びついていないことが原因だと思われる。対応としては、活動はそのまま実施するが、TV放送を利用してクリーン活動の振り返りを伝える活動も行う必要がある。
- ・学力向上策の観点から、課題である家庭学習習慣化の方策を一層追究し、全校体制で実践していく必要がある。その方策の一つとして、ICT機器の更なる活用を実践課題としたい。
- ・授業の内容改善策の一つとして、従来からの「書く学習」の実践とともに、場に応じた効果的なICT機器の活用を実践し、学習内容の定着を図らせる。学校図書の一層の有効活用を図っていく。

8 まとめと次年度に向けて（「小中一貫教育・地域学校園」に関する評価内容は○）

アンケート結果、学校関係者評価の結果を踏まえ、次年度の考え方、方向性を以下のようにする。

○活力ある生徒の育成を目指した活力ある学校づくりの推進を目指して、「前向きな気持ちをもって、粘り強く」をモットーに、生徒を前面に出し、見守り・見届けながら、①生徒と教職員に「目標をもって、中学校生活を送ってほしい（生徒の教育に当たってもらいたい）」②「出会いを大切にし、誰もが安心して生活してほしい」③「清中生である（清原中に勤務している）という自信と誇りをもってもらいたい」の3つの願いの実現に向けて師弟同行・率先垂範の教育を実践してきた。

教職員へは、生徒・保護者に対しては、「明るく、優しく、丁寧に」接していくことを常に呼びかけ、指導・支援にあたってもらっている。学校経営において、「職場は明るく楽しく、仕事は厳しく誠実に」を掲げ、職場の和を大切にし、「チーム清原」一丸となって充実した教育活動を推進してきた。

また、令和5年度の創立75周年記念事業関連の活動や本校の教育資源や地域の教育力を活用し、4つの目指す生徒像（①頑張る人 ②考える人 ③思いやりのある人 ④挑戦する人）の具現化に向け「100年目の清原中を見据えた」教育活動の推進を図っていききたい。

○これからの新しい時代は、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新等により社会は急速に変化し、予測困難な時代となってくる。生徒は、これから情報化の一層の進展などによる、急激な時代の変化に向き合い、生き抜いていかねばならない。そこで引き続き、現在の教育目標「活力ある生徒 よく考え、創造する生徒 豊かな心を持ち、思いやりある生徒 たくましく未来を切り拓く生徒」の具現化の下、様々な社会的変化を乗り越え、自らの夢の実現や社会貢献への志をもつ生徒、多様な人々と協働し、持続可能な社会の創り手となる自覚と責任をもった生徒の育成を図っていききたい。

活力ある生徒の育成を目指した活力ある学校づくりの推進

活力ある生徒の育成が、活力ある学校づくりにつながることや地域の発展に貢献することから、次年度も「笑顔と活力あふれる学校づくりの推進」「地域とともにある学校づくりの推進」を掲げることとした。また、令和7年度学校スローガンを引き続き、「GO ALL OUT～一生懸命はかっこいい～」とする。「GO ALL OUT」とは「全力を尽くして行う」という意味、令和7年を新たな挑戦の年とし、「どんな状況にも負けず目標達成に向け、一生懸命頑張ってほしい、そして、授業や学校行事、部活動などを通して、その頑張る姿こそが、かっこいいと自他ともに認め合い、学校生活でしか味わうことのできない感動に出会いながら、ともに成長してほしい」という思いを込めて設定した。以上のことを踏まえ、以下の項目に重点を置くことで生徒・教職員・家庭・地域の良さを十分に発揮しながら、地域とともにある学校づくりを継続して進めていく。

- （1）教職員の和を基調とし、「教師が変われば、生徒も変わる」を信条に、師弟同行の実践を踏まえ、「生徒を前面に出し、見守り・見届ける」生徒指導・支援の充実を図り、望ましい人間関係の育成に努める。
- （2）「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を図り、考え、表現する学び合い活動や焦点化した振り返り活動を取り入れるなど、生徒一人一人の確かな学力の向上に努める。
- （3）緑に恵まれた「清原の杜」の環境を活かし、思いやりや助け合う心を育て、特色ある学校づくりに努める。
- （4）生徒理解を基盤に、道德教育・人権教育・発達の段階に応じた教育相談の充実と各教科、総合的な学習の時間、特別動等の特質に応じた指導の深化を図り、生徒の活力や豊かな人間性・社会性の育成に努める。
- （5）一人一人の生徒が自己の特性について理解を深め、進路に関する情報を収集・活用し自らの生き方を探求するとともに、進路の選択・決定ができるよう、学校、家庭及び地域社会との連携を密にしながら、指導・支援に努める。
- （6）さくら連絡網や学校ホームページを効果的に活用し、積極的な情報発信に努める。家庭や地域社会等との連携を一層深めるとともに、地域から信頼される開かれた学校づくりを推進する。
- （7）教育公務員としての服務規律の厳正やコンプライアンスの徹底に努める。
- （8）教職員の働き方改革の推進に向けて、同僚性を高め、生徒と向き合う時間の確保及び就労時間の削減のために、日課の工夫やICTを活用した業務の効率化や勤務時間の適正化を図る。